

① 今年は何をしてみたいか？
(4月…課題設定の場)

・今年もアイガモ農法を学びたい。
・昨年のように、地域のことをよく知る人の話を聞いたり現地へ行って体験したりして、地域のことをまとめ、親の人たちに伝えたい。

地域の農園へ
お願い

②事前調べ(6月)
・インターネット
・先輩のまとめた資料参照

地域講師の依頼・相談
(田森自治振興センター)

②地域講師の方から逆課題提示の場

- 「なぜ東城温泉(リフレッシュハウス東城)が栗田にあるのか、どういう経緯でつくられたのか」を家族や近所の人に聞き取りして、調べてきてほしい。
- 「リフレッシュハウス東城」が今年で25年経つ中で、老朽化してきている。「今後の活用の在り方」について、地域で考えている。みんなのアイデアもまとめてほしい。

③地域講師の方から逆課題提示の場

- 安心安全な食について、1年間考えてまとめてほしい。(無農薬、有機肥料米・カモ肉を食すこと)
- 昨年の反省に立った取組の工夫をしてほしい。(合鴨がカラスや野犬に17羽襲われた経験)



③聞き取り交流(8月)

・児童の家族の中には、立ち上げに関わった人がいる。



④体験活動(7月～8月)

・田植え、手押し除草機、ネット張り、電柵設置
合鴨の朝と帰る前のエサやり、見守り点検



整理・分析

④フィールドワーク

・リフレッシュハウス支配人さんに話を聞き、現状や普段見られない場所を見せて頂いた。コロナ禍で再休業中。



⑤アイデア発表交流(8月)

・聞いたこと、見たことの課題を整理し、アイデア集結。

⑥講師の方が、児童のアイデアをリフレッシュハウス東城の支配人さんに届けられた。

昨年の後半、屋間も電柵に電気を流し、カラスの侵入はなくなった。そのせいか、今年の被害は無かった。その代わりに、合鴨の脱走に悩まされた。

合鴨農法の苦労は一つじゃないんだな。

⑤秋の収穫へ

どこかに穴があるはずだ。

講師から地域の歴史や現状を聞くだけでも「えっそうだったの!」と驚くことは多い。だが、実際に関わった人や今取り組んでいる人に自ら聞き取りを行うことで、受け身でなくなる。さらに、実際に現地に行きそこで働いている方から話を聞くことで、「聞く前・行く前・する前」の考えを改めることになる。現状の課題が実感でき、「今後の在り方」の意見が焦点化した。児童は経験が少ないので、見たり聞いたりした中でしか判断やイメージができないものの、「少しでも地域の役に立ちたい」という思いで主体的に活動していった。